

2016年度 自己点検・評価【経済学研究科】

C票

<目標、行動計画>進捗確認シート

提出日:2017年2月23日

責任者	経済学研究科委員長	作成部局	経済学研究科
-----	-----------	------	--------

2021年度に向けた教育研究目標

【A票:教育研究目標1】								
(タイトル) 規模に応じた教育、研究支援体制を再構築する。								
(狙い内容) 大学院生の人数が少ないことを利用して、履修者数や履修者の個々のニーズに応じた授業を提供できるよう、カリキュラム体制を改善する。また、研究職志望の大学院生に対して、学外、とくに海外での研究報告の支援を提供する。								
1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標) 少ない在籍者数を前提に、履修者の個々のニーズに応じた授業を提供できるカリキュラム体制の構築、研究職志望の大学院生の学外や海外での研究報告を支援する体制の構築 <変更時記入欄> <変更理由記入欄:2021年度のめざす姿(目標)を変更した場合、その理由を記入>								
2. 達成度評価								変更有無
評価指標	カリキュラム改革の進捗度合い 国内外研究報告に対する資金助成制度の拡充度合い			評価尺度	A:カリキュラム改革、研究支援拡充の実行 B:改革、拡充案の作成と承認 C:WGの立ち上げ D:現状維持			有(無)
	<変更時記入欄>				<変更時記入欄>			
3. 年度毎の目標値								変更有無
		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
2015年度(計画策定時)		D	C	C	B	B	B	A
2016年度進捗状況 & 今後の目標値	評価尺度: A~D	<実績> D	実績	<2016年度末時点の見込み又は実績又は目標> C				
	見込・実績・目標(値又は状況)	<実績> 現状維持		<2016年度末時点の見込み又は実績又は目標> WGの発足が承認される(実績)				
【2016年度の進捗状況について】 博士課程前期課程生が2年間で修得すべきコア科目の取り扱いについて大学院執行部で検討を開始し、WGを発足させた。WGでは関連する学部カリキュラムを含めて2019年度を目標に検討を開始した。また、一部の科目の適切性について大学院教育委員会にて検討を行った。 <変更理由記入欄:評価指標、評価尺度、年度毎の目標値が変更有の場合>								

2016年度の取組み状況の確認

2016年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか?	→ はい・いいえ
<上記で「いいえ」を選んだ場合>	
①理由:	
②今後必要な取組み:	

<評価専門委員会・第三者評価結果> 2017年1月27日公示
・ 目標達成の年度は2021年度からもう少し早くすることが期待されます。(C)
・ 適切な評価がなされている。(E)
・ 2016年度の取組みによって、何がどの程度進捗したのか、今後の課題は何であるのか、もう少し具体的に記述することが求められます。(H)

【A票:教育研究目標2】

(タイトル)

国際的に活躍する専門知識を備えた職業人を養成するため、アカデミズムと実務の融合を目指す多様なコースメニューを用意する。

(狙い内容)

経済学の専門知識を備え国際的な活躍する高度職業人を養成するために、国連・外交コースを履修する制度を整備する。前期課程は2年しかないので、国連・外交コース履修準備のために学部教育との連携を図る。

1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)

修士号修得後に、国際機関で働く高度な学生を、1名程度修了させる。

<変更時記入欄>

<変更理由記入欄:2021年度のめざす姿(目標)を変更した場合、その理由を記入>

2. 達成度評価

評価指標	国連・外交コース修了者数と国際機関への就職内定者数	評価尺度	A : 1名以上の国際機関就職内定者 B : 1名以上の国連・外交コース修了 C : 1名以上の国連・外交コース履修 D : コース未設定あるいは履修者なし	変更有無 有(無)
	<変更時記入欄>		<変更時記入欄>	

3. 年度毎の目標値

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	変更有無
2015年度(計画策定時)		D	D	D	C	C	B	B	有(無)
2016年度進捗状況 & 今後の目標値	評価尺度: A~D	<実績> D	実績 <2016年度末時点の見込み又は実績又は目標> D						
	見込・実績・目標(値又は状況)	<実績> コース未設定		<2016年度末時点の見込み又は実績又は目標> コース設定したが履修者なし(実績)					

【2016年度の進捗状況について】 ←

国連外交・コース副専攻を導入し、履修者のための指導教員の受け入れ体制を整えた。(現在のところ履修者なしのためD評価)

<変更理由記入欄:評価指標、評価尺度、年度毎の目標値が変更有の場合>

2016年度の取組み状況の確認

2016年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか? → はい・いいえ

<上記で「いいえ」を選んだ場合>

①理由:

②今後必要な取組み:

<評価専門委員会・第三者評価結果> 2017年1月27日公示

- ・履修者数の目標を、もう少し多くすることが望まれます。(C)
- ・適切な評価がなされている。(E)
- ・今後、国連・外交コースがスタートするにあたり、取組みが進捗することを期待します。(H)

【A票:教育研究目標3】

(タイトル)

対外的な研究成果の発信に努め、教育へのフィードバックを含め、研究成果を社会に還元し寄与していく研究科を目指す。

(狙い内容)

教員による研究活動を活性化し、社会へその成果を還元していくために、学術誌、ディスカッションペーパー、セミナー、コンファレンスなどにおける研究発信に加え、研究科ホームページなどICTを利用した情報発信を充実させていく。特にグローバル化が進むなかで、英語での情報発信を増やしていく。

1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)

学術誌、ディスカッションペーパー、セミナー、コンファレンスなどにおける研究発信をこれまで以上に積極的に進める。また、セミナー、コンファレンスなどの開催も積極的に行うことで研究交流を促進し、同時に研究成果の発信に努める。具体的には、掲載論文数の増加、掲載学術誌の水準の向上、セミナー、コンファレンスなどの開催の頻度の向上が挙げられる。

<変更時記入欄>

<変更理由記入欄:2021年度のめざす姿(目標)を変更した場合、その理由を記入>

2. 達成度評価

評価指標	発信できる研究成果としてのディスカッションペーパー発行数と経済学セミナーの開催回数	評価尺度	A:行動、計画どちらもA B:行動、計画どちらもB C:行動、計画どちらもC D:それ以外	変更有無 (有)無
	<変更時記入欄>		<変更時記入欄> A:行動計画①②どちらもA B:行動計画①②どちらもB C:行動計画①②どちらもC D:それ以外	

3. 年度毎の目標値

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	変更有無
2015年度(計画策定時)		D	D	C	B	B	A	A	
2016年度進捗状況 & 今後の目標値	評価尺度: A~D	<実績> D	実績	<2016年度末時点の見込み又は実績又は目標> D					
	見込・実績・目標(値又は状況)	<実績> 行動計画①②どちらもD		<2016年度末時点の見込み又は実績又は目標> 行動計画②のみCだが①はD(実績)					

【2016年度の進捗状況について】

ディスカッションペーパー 2017.2.2.12現在 17本(C評価)、また経済学セミナーおよび経済学研究会は随時申し込みとしたことにより3月予定のものを含めて18回と順調である。

<変更理由記入欄:評価指標、評価尺度、年度毎の目標値が変更有の場合>

文言修正のため

2016年度の取組み状況の確認

2016年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか? → はい・いいえ

<上記で「いいえ」を選んだ場合>

①理由:

②今後必要な取組み:

<評価専門委員会・第三者評価結果> 2017年1月27日公示

- ・ 学部の目標と同じですが、別途、研究科としての目標を設定することが望まれます。(C)
- ・ 適切な評価がなされている。(E)